

 2025年度 大阪府訪問看護実践研修

教育ステーション事業 事業実績報告書

ブロック名 市東ブロック

ステーション名 りんくる訪問看護ステーション

 報告書作成者： 渡邊 順貴





事業目的

OUR PURPOSE

地域に根ざした訪問看護ステーションとして、持続可能で高品質なサービス提供体制の構築を目指します。



人材の確保・育成・定着

地域の実情を把握し、地域資源を活用しながら訪問看護師が長く活躍できる環境を整える



サービス品質の向上

研修や事例検討を通じて、より質の高い訪問看護サービスの提供を目指した取り組みを行う



BCP（事業継続計画）の強化

災害やパンデミック等の危機的状況時においても、訪問看護サービスが継続できる環境を整備する



信頼性と対応力の向上

地域全体の訪問看護サービスに対する信頼性を高め、多様なニーズに応える対応力を強化する



今年度の 目標

THIS YEAR'S GOALS

多職種協働と地域連携を軸に、訪問看護の質向上と基盤強化に取り組めます。



ACP実践人材の育成

多職種に対してACP研修を実施し、現場でACPを実践できる人材を育成する



参加ステーションの拡大

研修・相談事業の内容や広報方法を検討し、より多くのステーションの参画を促す



多職種連携の強化

多職種向け研修を通じてケアの質を向上させ、顔の見える協働関係を構築する



訪問看護の理解促進

地域や医療機関へ働きかけ、訪問看護の役割や機能への理解を深める



地域の相談窓口機能

訪問看護ステーションに限らず、多職種・地域住民にとっても頼れる相談窓口となる



研修事業①

集合・ハイブリッド

TRAINING REPORT 01

対面とオンラインを組み合わせたハイブリッド形式を活用し、多くの専門職にご参加いただきました。



研修テーマ

開催日

形式

参加人数



看護師で実践できる
リハビリテーション

7月29日

ハイブリッド

現地11名 / オンライン10名



多職種向けACP研修
(第1回)

8月16日

ハイブリッド



多職種向けACP研修
(第2回)

11月1日

ハイブリッド



Point

ACP研修は2回開催で合計**75名**が参加。多職種を巻き込んだ研修として高い関心を集めました。



研修事業②

オンライン研修

ONLINE SEMINARS

専門性の高いテーマについて、場所を選ばず参加できるオンライン形式で実施しました。

研修テーマ

開催日

参加人数



褥瘡ケア

皮膚排泄ケアの基礎と実践

8月25日



グリーフケア

遺族ケアと看護師のメンタルヘルス

10月22日



排便に関わる薬剤の使用方法

適切な薬剤選択と指導のポイント

12月19日



オンライン研修の成果

専門的なテーマに特化し、移動の負担なく学習できる機会を提供。3回の開催で安定した参加者数を確保しました。

TOTAL PARTICIPANTS

69名



相談・支援 事業

CONSULTATION & SUPPORT

地域住民への直接的な支援と、
専門職からの相談対応の両輪で
地域医療を支えています。



府民への相談支援

地域イベントでの活動

2025年10月5日

つるみ区民祭り

健康相談ブースを設置し、地域住民の健康に関する悩み
や介護相談に対応しました。

約50名

当日の相談対応人数



“ 地域に開かれたステーションとして、住民の方々と直接
触れ合う貴重な機会となりました。



電話・FAX相談

専門職・事業所からの相談

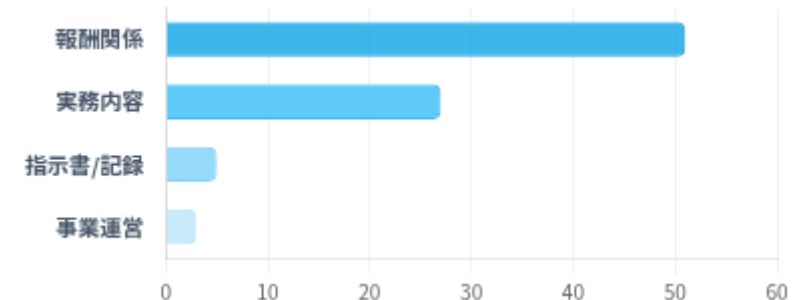
👑 目標達成

目標件数
40件



実績件数
60件

▼ 相談内容の内訳（延べ件数）



迅速な回答体制

相談の **75%** を3日以内に回答



コンサル 体験研修

CONSULTATION & TRAINING

地域のステーションや医療機関
に対し、専門的な助言と実践的
な学びの場を提供しています。



コンサルテーション

専門的支援・助言

3件

対面サポート実績

▼ 主な相談内容



精神科訪問看護の相談

対応困難事例へのアプローチ方法助言



リハビリ展開の相談

在宅における効果的なリハビリ計画の立案



食事介助の相談

グループホームでの嚥下状態に合わせた介助指導



訪問看護体験研修

現場での実践学習

13名

看護業務体験

2名

管理業務体験

▼ 看護業務体験 参加者内訳



病院所属

10名 (地域連携の強化)

ステーション所属

3名 (初任者研修等)

✓ 管理業務体験の内容

シフト管理、レセプト業務、地域連携業務などの講義と実務見学を実施



今年度の 成果

KEY ACHIEVEMENTS

多職種連携の強化、相談窓口としての機能定着など、主要な目標において顕著な成果が得られました。



↑ 目標達成

多職種向けACP研修 参加者

75名

2回の開催で医療・介護の多職種を巻き込み、目標を上回る集客を実現。地域におけるACPへの関心の高さに応えました。



👑 目標大幅超過

電話・FAX相談 実績

60件

目標40件に対し150%の達成率。地域の相談窓口として機能し、報酬改定や実務に関する悩みを解決しました。



相談回答の迅速化

75%

相談の75%を3日以内に回答。現場の「困った」に素早く対応し、ステーション運営を強力にバックアップしました。



病院所属看護師の受入

10名

訪問看護体験研修において、病院所属の看護師を多数受け入れ。地域連携の強化と、将来的な人材確保の土台を作りました。



課題と改善策

ISSUES & SOLUTIONS

今年度の振り返りから抽出された課題と、それに対する次年度の具体的な改善策を整理しました。



⚠ 現在の課題

💡 改善策



広報開始の遅れ

情報の周知期間が短く、目標参加人数に届かない研修があった。



スケジュールの早期確定

年間計画を早期に策定し、十分な周知期間を確保して広報を強化する。



オンライン研修の反応が薄い

顔出しルールがなく、参加者の反応が見えづらいため双方向性が不足。



参加ルールの見直し

カメラON（顔出し）を推奨・必須化し、参加型としての質を向上させる。



相談内容の偏り

制度面の相談が多く、技術的コンサルテーションへの接続が不十分。



初期事業所への支援強化

立ち上げ初期のステーションへ積極的にアプローチし、技術的支援も提案。



役割分担が不明確

協力ステーション間での連携や役割分担があいまいであった。



役割の明確化とチーム化

各ステーションの役割を定義し、チームとして機能する体制を整備する。



次年度に向けて

ACTION PLAN

抽出された課題を踏まえ、より質の高い事業運営を目指して、5つの重点アクションに取り組みます。



STEP 01



年間スケジュールの早期確定

年度初めに年間計画を確定させ、十分な告知期間を確保することで、参加者のスケジュール調整を容易にし、集客力を向上させます。

STEP 02



オンライン研修ルールの整備

「顔出し推奨・必須」などのルールを明確化。参加者の反応が見える環境を作ることで、双方向性の高い、より質の高い研修を実現します。

STEP 03



事業所へのアプローチ強化

立ち上げ初期のステーションへ重点的にアプローチ。運営支援が必要な層に情報を届け、教育ステーション事業への参画を促します。

STEP 04



参考資料提供の充実

「よくある質問」や「運営の手引き」などの参考資料を整備・提供し、各ステーションの自己解決能力向上をサポートします。

STEP 05



協カステーション間の役割明確化

各協カステーションの強みを活かした役割分担を定義し、チームとして有機的に連携できる体制を構築します。



まとめ

SUMMARY

今年度の成果を基盤に、地域医療の質向上と持続可能なステーション運営に向けて、次年度も邁進してまいります。



多職種連携による ACP研修の成功

医療・介護の多職種を巻き込んだ研修を実施し、地域全体でのACP実践力を強化。**75名**の参加者を得て、顔の見える関係づくりにも貢献しました。

体験研修での 現場理解促進

病院所属看護師**10名**を受け入れ、病棟と在宅の相互理解を深化。退院支援や地域連携の質向上につながる人的ネットワークを構築しました。

地域の相談窓口としての 機能定着

年間**60件**の相談に対応し、その多くを3日以内に回答。地域のステーションが抱える課題に対し、迅速かつ的確な支援を提供する体制を確立しました。

次年度の さらなる飛躍へ

スケジュールの早期確定による**広報強化**、オンライン研修の質向上、そして運営支援の拡充を通じ、教育ステーション事業の価値をさらに高めていきます。